

校長室だより
NO. 15
平成30年6月18日

すべては光る

梅園小学校長
たか すりょうへい
高 須 亮 平

夏の大会まであと1か月になったキャプテンの思い

今年度の岡崎市小学校球技大会（7月23日・月）・水泳大会（7月30日・月）・Nコン三河地区予選（8月2日・木）が1か月ほど後に迫り、それぞれの部活動ではその大会・コンクールに向けた練習に熱が入ってきました。6年生にとっては、これまで2年余の間、部活動に所属して、これらの大会を目標に努力してきました。それは、それぞれの運動技能を高めることや仲間で力を合わせることを身に付けることでもありました。

今回、そんな思いを持ってがんばってきている各部活動のキャプテンから、現在の気持ちを聞いてみました。参加してくれたキャプテンは次の通りです。

ソフトボール部	男子（山本 大智・6年2組）	女子（椎葉まい子・6年4組）
バレーボール部	男子（萩原 颯麻・6年2組）	女子（亀島わかば・6年2組）
水泳部	男子（橋本 周磨・6年4組）	女子（青木 玲蘭・6年3組）
バスケットボール部	（瀬々 水穂・6年1組）	
サッカー部	（尾方 将太・6年1組）	
音楽部	（松元 菜兎・6年3組）	



次が、キャプテンからの言葉です。さすがキャプテンです。チームをまとめる気持ちが伝わってきます。

【あと1か月、キャプテンとしてがんばりたいこと】

将太(サッカー):練習中に声が出ていなくて、先生によくしかられたことがあった。しかられる前に、キャプテンとして、チームを楽しみ雰囲気にしてがんばる気持ちを出すために、もっと声を出してチームのレベルを上げるようにする。

玲蘭(水泳):水泳部も体操の声が出てなかったり、すぐに並べなかったり、先生の話が聞けなかったりしている。夏の大会までチームとしての団結が必要だからみんなをまとめる声かけをする。

周磨(水泳):4・5年生にもあと1か月しかアドバイスができないので、4・5年生が次に6年生になった時にいい成績が残せるようにいっしょに練習をがんばる。

大智(ソフト):コミュニケーションがとれていないので、普段の練習や実践でコミュニケーションをとるようにする。例えば、ボールをとるにしても中途半端でとるのではなく、声をかけ合い、みんなで考えていることをわかり合えるようにする。

わかば(バレー):声をかけ合い、特にミスが連続した時にみんなで励まし合いたい。練習やその準備から行動にして行っていく。

まい子(ソフト):思っていることを人に伝え合うことができていない。「声出し」ができていても「声かけ」ができていない。人に伝え合うアドバイスをし合うことが大切で、どこがよいか互いに伝え合う。

菜兎(音楽):音楽部は4年生から大会に出る。でも、話し合いは6年生ばかり意見を出して6年生が中心。だから、4年生にも声をかけて話し合いに加えて全員の気持ちを理解し合うようにする。

颯麻(バレー):声をかけられない。だからボールが落ちてしまう。サーブも確実ではない。その中で、

バスケットボール部の練習風景

サーブが一番大切。キャプテンとしてみんなサーブが確実にできるように、特に苦手な子にはアドバイスをし、全員が強いサーブを打てるようにする。

水穂(バスケット):自分勝手をしてよく先生にしかられるけど、先生に言われなくても、先生の言いたいことを考えてチームプレーをしたい。私からチームのことを正しく伝えていきたい。

【チームのことを考え、まとめるとは】

わかば(バレー):キャプテンがみんなに分かるように、チームのことを考えて声かけをする。

水穂(バスケット):厳しくする時には厳しくする。楽しくする時には楽しくする。メリハリを付ける。

玲蘭(水泳):先生に言われなくても、私が先生の言おうとしていることを感じて、みんなに伝える。

【大会・コンクールで目標を達成させるためには】

栞兎(音楽):目標は全国大会だけど、その前に「心を1つ」にする。心を1つにするって言っても実際にはできないかもしれないけど、そのことは自分たちで考える。全員、同じことを思っていてやっていると、心が1つになると思う。歌を歌っている間にみんなと同じことを感じて、考えて心を1つにしたい。そうすると楽しくなり、きっと目標達成できると思う。

玲蘭(水泳):団結が大切と思う。私たち水泳部は個人競技で団結や協力がいらぬように思うけど、練習ではみんなといっしょに泳ぐ。だからチームとして気持ちを合わせた団結が大切と思う。

颯麻(バレー):今度のファミマカップは去年は3位だったので優勝を目指す。その試合で悪いところ、よいところを本番の試合を想定して、一人一人が1つ1つ練習の中で丁寧に意識して行う。

水穂(バスケット):練習でできないことは試合ではできない。だから、練習の時にできないこと、ダメなことをお互いに言い合い、教え合ったりする。丁寧に話し合っ、丁寧に練習を行う。

周磨(水泳):リレーのメンバーが大きく替わる。引き継ぎが心配だから、練習でたくさん合わせたい。

まい子(ソフト):一人一人に温かい声かけをして自信を持ってプレーができるようにしたい。

将太(サッカー):優勝する気持ちを持ちながら、まずは予選を突破して決勝に残ることを想定して練習を行う。いつも試合の時に思う気持ちをもって練習に取り組む。

大智(ソフト):反省する点を1つ1つ試合までにできるようにする。そのために先生とも相談する。

わかば(バレー):コート内6人だけではなく、部活動みんなの力で臨んで戦っていることを考えていきたい。

あと1か月の部活動で、キャプテンの思いが行動にして表し、夏の大会・コンクールを充実した気持ちで迎えられるようにしてほしいものです。

小学生としての最後の夏、それぞれの部活動の子どもたちの健闘を祈ります。



大会への決意を確かにしたキャプテン

本校教職員の紹介

本年度初めの転入生により、急速、学級増となりました。そのため、これまで教員数が教員定数の規定から1名少ない状況で教育に当たってきました。具体的な職務については、なかなか苦しい状態でしたが、本日、6月18日(月)から新たに常勤講師、教員補助者が各1名任用されましたので、お知らせします。

期限付任用講師(常勤) 山崎 希 (教員補助者から)

教員補助者 本間 裕子 (新規)

山崎講師は、一部の学級の授業を担当する他、これまでの教員補助者として従事していた学校図書館の仕事を継続して行います。また、本間教員補助者は、特別支援学級や普通学級で支援が必要な子どもの指導に当たります。よろしくお願いいたします。